

C-66 妊産婦の体型について(第2報) —妊産婦の身体各部寸法—

広島女学院大短大 藤田光子 和田みどり 広島文化女短大 ○谷山和美

目的 被服を構成するためには、それを着用する人の身体各部寸法と発育傾向および体型などを正しく把握する必要がある。そこでこれらの基礎資料を得ることを目的として、現在までに4~66才の女子を計測し、検討してきた。今回は体型の変化の大である妊産婦を対象とし、その身体各部寸法と体型の研究を試みた。

方法 昭和45年9月から46年7月までの11カ月間に、広島市内在住の妊娠3カ月から10カ月、産後1カ月の妊産婦220例(延573例)のシルエット測定を行なった。採寸項目は、長径・周径・幅径・厚径・体角項目および体重の計52項目で、そのうち特に妊娠により変化がみられる20項目について検討した。

結果

1. 妊婦の身体で変化の著しい項目は、前胸高、全前丈、股上前後長、胸・腹角、胸・腹部に關係のある周・厚径項目および体重である。
2. 胸・腹部關係の周径項目では、幅径より厚径の増加がきわめて大である。
3. 身長に対する胸・腹部關係項目の示数値は、月数が進むにつれ大となる傾向である。
4. 身長区分別示数値によると、妊婦の体型変化は身長の低いものに、より顕著にみられる。
5. 産後1カ月において復元率の高い項目は、前胸高・腹角などで、低い項目は、胸および腰部關係項目である。